

【報道関係各位】

2008年7月29日

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

札幌円山動物園内に環境について楽しく学べるカフェ
「nature cafe EARTH (ネイチャーカフェ アース)」

2008年7月29日(火) オープン

札幌円山動物園内初のカフェ

札幌市と北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社:札幌市清田区 社長:角野中原)は、札幌市民や札幌を訪れる人々に環境問題を考えるきっかけを提供することで、潤いある環境文化都市の実現を目指し、「札幌市円山動物園における環境協働事業に関する協定」を2008年4月30日に締結しました。

その活動の一環として、札幌円山動物園初となるカフェ「nature cafe EARTH(ネイチャーカフェアース)」を2008年7月29日(火)にオープンいたします。



「nature cafe EARTH (ネイチャーカフェアース)」

【店舗概要】

延床面積: 約126㎡

客席数: 店内60席(内キッズテーブル12席) 屋外テラス12席

札幌市円山動物園内に出店するカフェ「nature cafe EARTH（ネイチャーカフェアース）」は、同園が大切にしている環境活動の推進・支援等を通じて、「未来を担う子供たちが夢をもって成長できるまちの実現」をめざした「札幌市円山動物園における環境協働事業に関する協定」を具現化する一つとして位置付けております。

当カフェでは、「地球と仲良くする心、自然と仲良くする心、そして、人や動物たちと仲良くする心、について、大切な人と一緒に考えてほしい」をコンセプトに、「安全でおいしい食と自然感から得られる癒しの提供」と企業や学校等との連携による情報発信を通じて、「環境を考えるきっかけ」を提供していきます。また、札幌平岸高等学校や北海道大学等その他協力団体と協働で、店内の100インチ大型スクリーンで、自然破壊や環境変化等のメッセージを来園者に発信していきます。あわせて、参加体験型イベントを通して、楽しみながら環境問題を考える仕組みを提案していくほか、学生や一般研究者の成果発表の場としても活用していきます。

店舗設計にあたっては、札幌市立大学監修のもと、自然感あふれる空間でありながら、コカ・コーラが持つ「さわやかで親近感のある」店内装飾を施しました。

店内は、キッズスペースの設置により、子供から大人まで気軽に楽しめる設計となっています。また、スロープを設置し車椅子やベビーカーにも配慮された構造となっています。

提供メニューについては、業務提携先であるジャスマックプラザホテルと考案したメニューを提供していきます。北海道産豚肉で作ったオリジナルソーセージを使用したホットドックをはじめとしたメニューを中心とし、子どもたちに人気の高いカレーライスやパスタ、デザート等もご用意いたしました。これらも道産食材をふんだんに使用した地産地消メニューとなっております。

また、コカ・コーラの提供には「リターナブルボトル（ビン）」を使用し、店内での料理提供にもリユースを基本とした省資源に取り組みます。

当社は、「変化への挑戦～北の大地とともに～」をスローガンに、環境保全活動を通じて、持続可能で、安全・安心な社会の実現を目指しております。

これからも、次世代を担う子どもたちに、将来の地球の姿を考える場を提供することや、安全・安心を守る活動を、事業活動を通じて継続的に推進してまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

広報・CSR推進部 広報課

011-888-2091

【ご参考】

当社の主な取り組み

環境への取り組み

「ジョージア サントスプレミアム 北海道限定デザイン缶」の売上金の一部を、販売数に応じて北海道に寄附することを、2007年10月17日北海道と締結致し、2008年5月27日、北海道庁に第一回目の寄付（約568万円）を行いました。「お買い上げいただいたお客さま一人ひとりのお気持ち」を具現化するものとして、北海道の自然保護活動を継続的に推進し、自然と共生する地域作りを応援しています。

知床地域内に設置したすべての当社自動販売機の売上金の一部を自治体が行う知床の環境保全活動に寄付することとした協定を、地域の皆様とともに斜里町及び羅臼町と締結し、知床世界自然遺産地域の環境保全活動を推進しています。

環境配慮企業を目指す当社札幌工場では、廃棄物を全てリサイクル処理する「ゼロエミッション」を2000年から継続しているほか、ボイラーの天然ガス化に取り組んでいます。

地域との取り組み

北海道との協働の取り組みとして、2006年7月に「子どもの安全を見守る運動」を北海道にご提案し、官民一体となった道民活動を展開しています。

2006年12月には、北海道と「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を締結し、災害時における飲料の提供はもとより、災害対応型自動販売機を活用して平常時から防災意識の高揚による地域防災力強化を図るさまざまな協力活動を各自治体との協働で取り組んでいます。

（現在：1道10市27町2村 107台運用）

自治体、及び国土交通省北海道開発局との協定に基づいて、「道の駅」では、災害対応型自動販売機の電光掲示板機能を活用して、道路利用者や地域住民に対して、道路情報や災害情報、地域にイベント情報を発信しています。（現在：1市25町6村ほか 36台運用）

安全・安心な街づくりを目指して、北海道警察との協働事業「防犯ほっとインフォメーション」を2007年3月にスタートさせました。自動販売機の電光掲示板機能を活用して、警察署からの事件情報や防犯啓発に関する呼びかけなどの情報を発信する取り組みを札幌市内で展開しています。（現在：12台設置）